

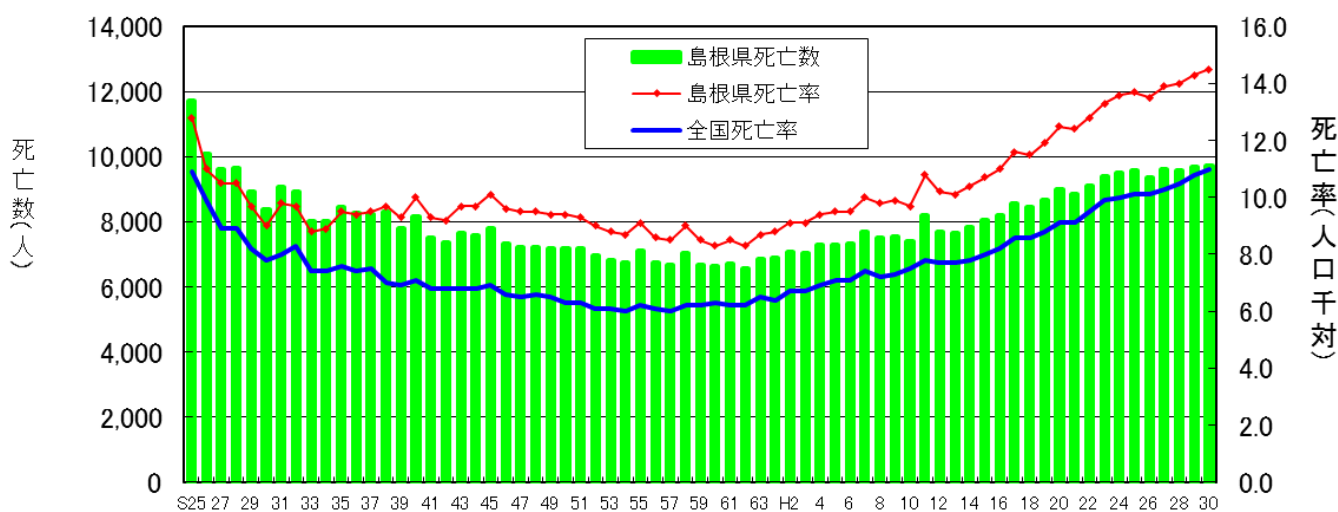
3 死亡

(1) 死亡数・死亡率

平成 30 年の死亡数は 9,724 人で、前年の 9,694 人より 30 人増加し、死亡率（人口千対）は 14.5 で、前年の 14.3 より 0.2 増加した。

死亡率の年次推移をみると、戦後急速に低下したが昭和 30 年代半ばから低下傾向が緩やかになり、昭和 63 年からは人口の高齢化に伴って再び上昇し始め、その後も上昇傾向を続けている（図 4）。

図 4 死亡数・死亡率の年次推移



年齢階級別に死亡率（人口 10 万対）をみると、0～4 歳、25～29 歳、35～39 歳、50 歳代、60～64 歳の各階級及び 80 歳以上が前年より増加し、5～9 歳、15～19 歳、20～24 歳、30～34 歳、40 歳代、65～69 歳、70 歳代の各階級が前年より減少した。特に 75～79 歳の階級の減少が大きい。

死亡率性比（男性の死亡率／女性の死亡率×100）を年齢階級別にみると、0～4 歳及び 25 歳以上の各階級において 100 以上となっており、男性の死亡率が高いことを示している（表 4）。

表4 年齢（5歳階級）別死亡数・死亡率（人口10万対）・死亡率性比

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡率性比
	平成30年	平成29年	対前年増減	平成30年	平成29年	対前年増減	
総数	9,724	9,694	30	1,449.2	1,429.8	19.4	96.9
0～4	14	12	2	53.8	44.4	9.4	232.1
5～9	1	2	△ 1	3.6	7.1	△ 3.5	-
10～14	1	1	-	3.4	3.4	-	-
15～19	5	7	△ 2	15.6	21.9	△ 6.3	58.8
20～24	8	15	△ 7	34.8	65.2	△ 30.4	-
25～29	12	11	1	48.0	42.3	5.7	461.4
30～34	15	21	△ 6	48.4	65.6	△ 17.2	257.8
35～39	23	21	2	63.9	56.8	7.1	340.0
40～44	37	45	△ 8	86.0	102.3	△ 16.3	257.7
45～49	56	69	△ 13	133.3	168.3	△ 35.0	201.5
50～54	89	85	4	234.2	223.7	10.5	169.7
55～59	133	131	2	316.7	304.7	12.0	259.5
60～64	288	279	9	626.1	581.3	44.8	251.2
65～69	482	539	△ 57	831.0	883.6	△ 52.6	267.9
70～74	624	591	33	1,300.0	1,313.3	△ 13.3	274.5
75～79	843	877	△ 34	2,161.5	2,307.9	△ 146.4	215.8
80～	7,093	6,988	105	8,247.7	8,125.6	122.1	128.3

注：死亡率性比＝男性の死亡率／女性の死亡率×100

(2) 死因

①死因順位

平成30年の死亡数を死因順位別に見ると、第1位は悪性新生物で2,417人(人口10万対死亡率360.2)、第2位は心疾患で1,388人(206.9)、第3位は老衰で987人(147.1)となっている(表5)。なお、全国の死因は、第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が老衰となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物による死亡率は上昇を続け、昭和59年以降、死亡原因の第1位となった。心疾患の死亡率は、平成12年に死亡原因第2位となって以降上昇傾向にある。老衰の死亡率は、ほぼ横ばいで推移していたが、平成19年以降上昇し続けている。脳血管疾患の死亡率は、平成12年以降概ね横ばいで推移している。(図5)。

また、死因別の死亡率を都道府県ごとに見た場合、老衰(全国第2位)、誤嚥性肺炎(第3位)、血管性及び詳細不明の認知症(第4位)が高い水準を示している。

図5 主要死因の死亡率の年次推移

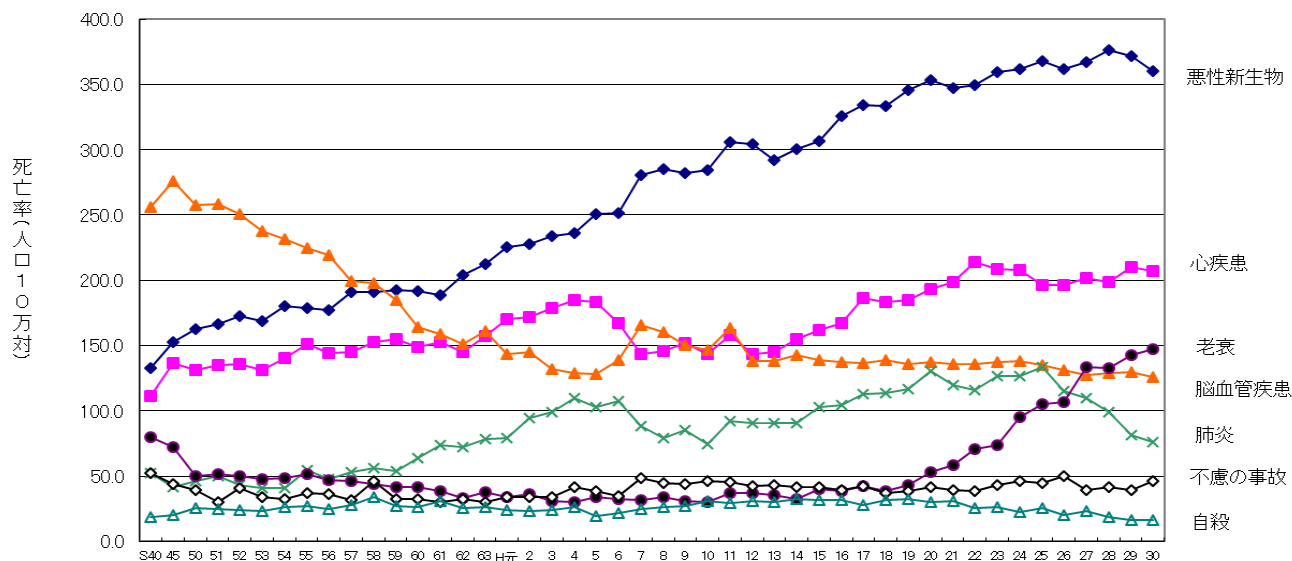


表5 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位；性別

死 因	平成 30 年									平成 29 年		
	総数			男性			女性			総数		
	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率
悪性新生物<腫瘍>	1	2,417	360.2	1	1,408	434.6	1	1,009	289.9	1	2,518	371.4
心疾患(高血圧性を除く)	2	1,388	206.9	2	568	175.3	2	820	235.6	2	1,426	210.3
老 衰	3	987	147.1	5	214	66.0	3	773	222.1	3	970	143.1
脳血管疾患	4	847	126.2	3	352	108.6	4	495	142.2	4	878	129.5
肺 炎	5	512	76.3	4	288	88.9	5	224	64.4	5	550	81.1
誤嚥性肺炎	6	328	48.9	6	191	59.0	8	137	39.4	6	287	42.3
不慮の事故	7	309	46.1	7	169	52.2	7	140	40.2	7	265	39.1
アルツハイマー病	8	238	35.5	12	70	21.6	6	168	48.3	8	216	31.9
血管性及び詳細不明の認知症	9	193	28.8	14	61	18.8	9	132	37.9	10	190	28.0
腎 不 全	10	180	26.8	9	91	28.1	10	89	25.6	9	191	28.2

注1)平成 29 年は確定数

2)平成 29 年より死因統計に係る分類基準は「ICD-10(2013 年版準拠)」に変更となり、それに伴い、「誤嚥性肺炎」が死因順位に用いる分類項目に追加された。本概況における表4の平成 29 年については、確定数と厚労省の定める死因順位に用いる分類項目に基づいて順位づけを行ったものである。

3)男性の8位は「慢性閉塞性肺疾患」で死亡数 121 死亡率 37.3、また 10 位は「自殺」で死亡数 80 死亡率 24.7 である。

②年齢別死因

平成30年の死因を性・年齢（5歳階級）別構成割合から見ると、自殺の占める割合は女性が15～19歳、30～34歳、男性においては30～34歳、15～19歳が高くなっている。また、死因順位第1位の悪性新生物の占める割合は、男性は10～14歳が最も高いものの、全体的には年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、65～69歳がピークとなっている。女性は30～34歳が最も高く、概ね40代から50代では5割以上を占めている。（図6）。

図6-1 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（男性）

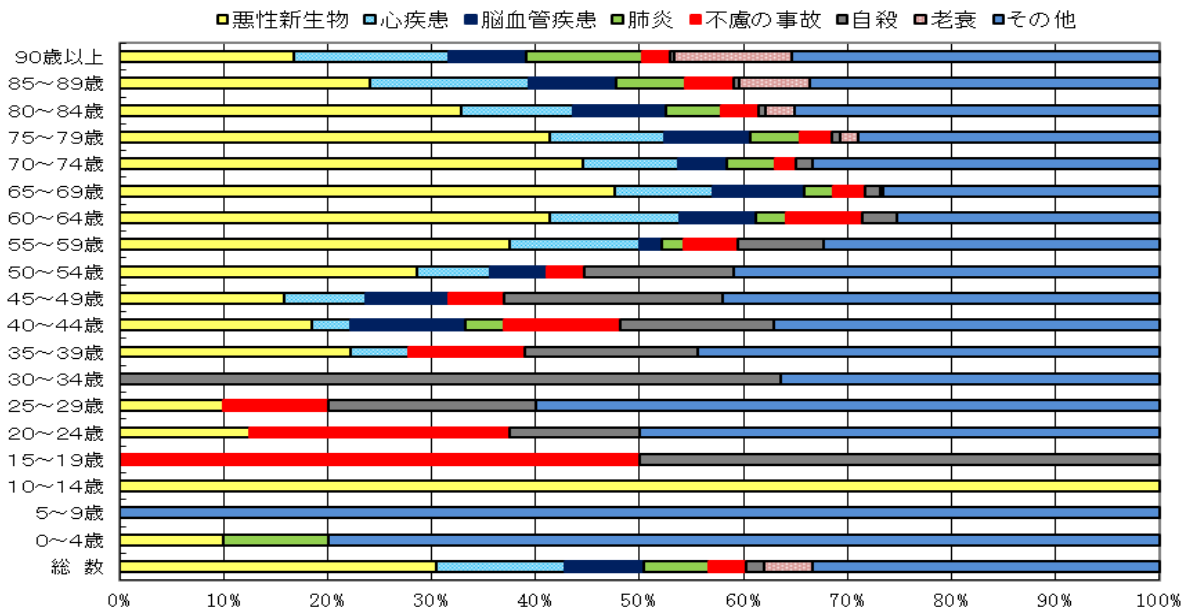
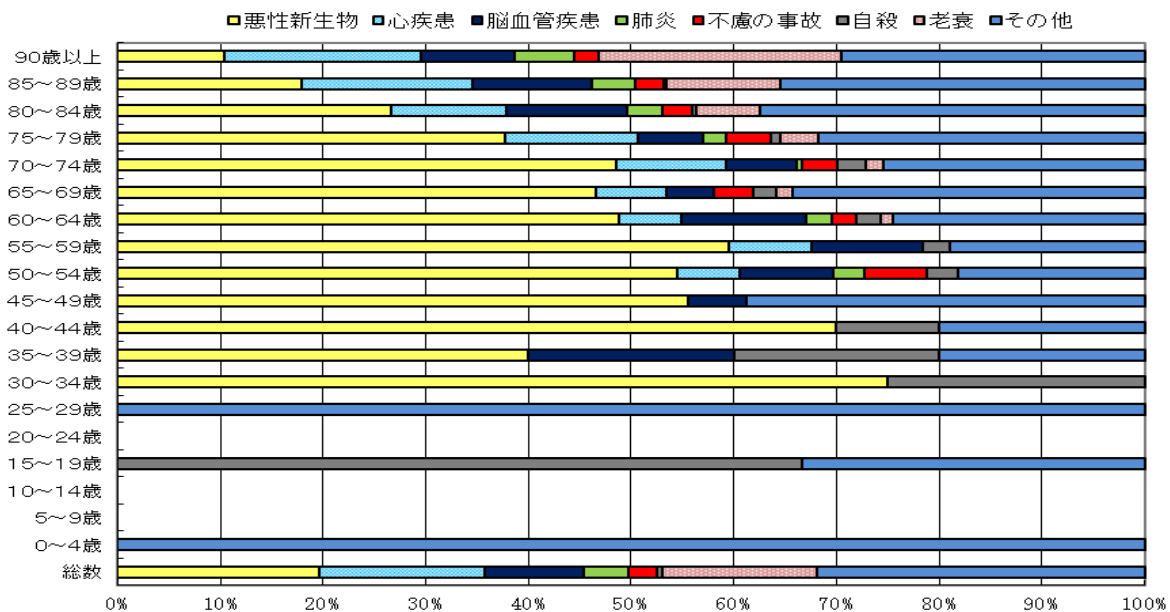


図6-2 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（女性）



③部位別に見た悪性新生物

悪性新生物について死亡数、死亡率（人口 10 万対）を主な部位別に見ると、男性では肺が上昇し、平成 30 年の死亡数は 328 人、死亡率 101.2 となっている。女性では乳房、子宮が上昇し、平成 30 年の死亡数はそれぞれ 73 人、38 人で、死亡率は 21.0、10.9 となっている。（表 6、図 7）。

表 6 悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率（人口 10 万対）の年次推移

死亡数

性別	部位	S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30
男性	胃	250	314	293	273	263	267	230	227	242	230	218	237	216	208	207	197
	肺	19	61	82	169	250	299	363	301	352	305	347	336	363	319	305	328
	肝	54	55	65	121	206	208	191	173	155	159	143	159	137	141	122	115
	膵	8	23	26	54	84	92	89	113	100	101	114	119	119	137	118	107
	大腸*	23	42	48	79	151	163	164	168	177	192	157	175	171	178	158	148
女性	胃	165	179	202	149	159	137	152	137	137	146	149	134	116	109	130	115
	肺	8	18	32	52	109	98	107	123	101	137	112	126	118	128	139	129
	肝	37	33	35	55	89	99	90	88	85	84	103	80	76	90	88	64
	膵	6	17	24	40	68	89	92	99	128	96	101	92	115	133	121	117
	乳房	18	16	25	28	38	43	54	65	56	62	63	67	72	78	55	73
	子宮	93	71	57	40	38	25	21	36	30	30	34	35	29	26	33	38
	大腸*	30	44	48	85	123	125	150	140	154	153	165	150	160	159	177	173

死亡率

性別	部位	S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30
男性	胃	54.7	79.8	80.0	71.7	71.7	73.7	65.2	66.5	71.4	68.2	65.3	71.4	65.3	63.2	63.5	60.8
	肺	4.2	15.5	22.4	44.4	68.1	82.6	102.8	88.2	103.8	90.5	103.9	101.2	109.7	97.0	93.6	101.2
	肝	11.8	14.0	17.7	31.8	56.1	57.4	54.1	50.7	45.7	47.2	42.8	47.9	41.4	42.9	37.4	35.5
	膵	1.8	5.8	7.1	14.2	22.9	25.4	25.2	33.1	29.5	30.0	34.1	35.8	36.0	41.6	36.2	33.0
	大腸*	5.0	10.7	13.1	20.7	41.1	45.0	46.5	49.2	52.2	57.0	47.0	52.7	51.7	54.1	48.5	45.7
女性	胃	34.9	41.8	50.4	35.8	39.8	34.7	39.3	36.9	37.1	39.9	41.0	37.2	32.4	30.7	37.0	33.0
	肺	1.7	4.2	8.0	12.5	27.3	24.8	27.6	33.1	27.4	37.4	30.9	35.0	32.9	36.1	39.6	37.1
	肝	7.8	7.7	8.7	13.2	22.3	25.1	23.3	23.7	23.0	23.0	28.4	22.2	21.2	25.4	25.1	18.4
	膵	1.3	4.0	6.0	9.6	17.0	22.5	23.8	26.7	34.7	26.2	27.8	25.6	32.1	37.5	34.5	33.6
	乳房	3.8	3.7	6.2	6.7	9.5	10.9	14.0	17.5	15.2	16.9	17.4	18.6	20.1	22.0	15.7	21.0
	子宮	19.7	16.6	14.2	9.6	9.5	6.3	5.4	9.7	8.1	8.2	9.4	9.7	8.1	7.3	9.4	10.9
	大腸*	6.4	10.3	12.0	20.4	30.8	31.7	38.8	37.7	41.7	41.8	45.5	41.7	44.7	44.8	50.4	49.7

注：大腸の悪性新生物は、結腸と直腸 S 状結腸移行部及び直腸を示す。

ただし、昭和 40 年は十二指腸と小腸を含み、昭和 50 年は肛門を含む。

図 7-1 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（男性）

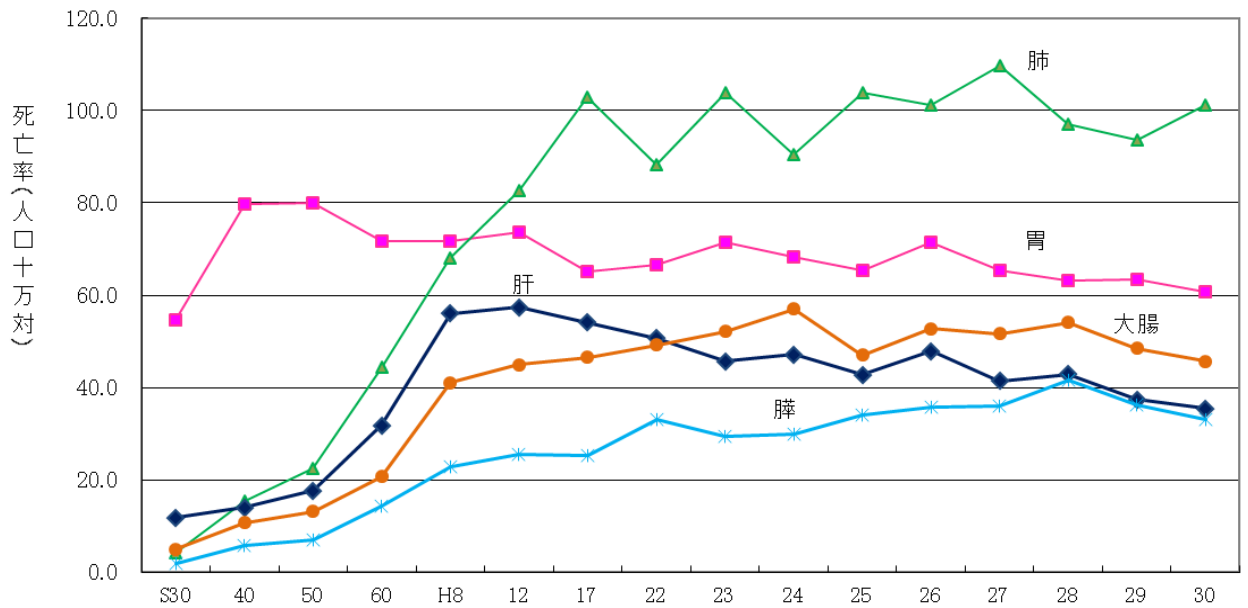


図 7-2 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（女性）

